

# 北陸地域の概要 (2022年7月調査)

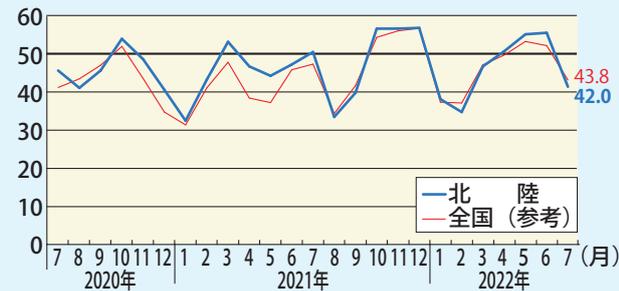
地域開発調査部 研究員

吉田 聡子

## 1. 景気の現状判断

行動制限はかかっているものの  
第7波により活動が鈍化

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

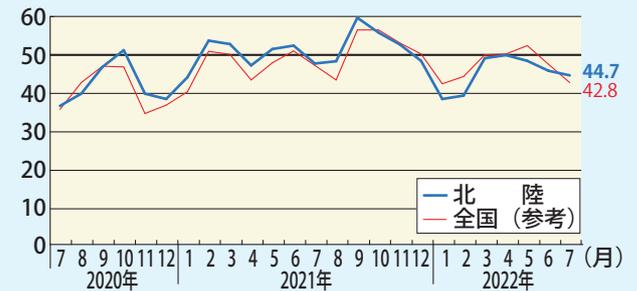


現状判断指数(DI)は前月から14.3ポイントの大幅下落となり42.0と、4か月ぶりに50を下回った。「新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しており、回復傾向にあった販売業に水を差した状態になっている(衣料品専門店)」、「夏休みにもかかわらず人出が激減している。買物客は散策することもなく、用事を済ませるとすぐに帰途についており、全くお手上げの状態である(商店街)」、「新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加しており、7月19日以降、夏の団体旅行や企業における出張のキャンセルが相次いで発生している(旅行代理店)」と、行動制限はかかっているものの再び厳しいものとなった。さらに、客の動きのみならず「第7波の影響は従業員にも及び、スタッフが安定的に出勤できない店舗が発生するなど、運営に支障が出るケースが発生している(その他小売[ショッピングセンター])」と感染拡大の影響は多岐にわたっている。

## 2. 景気の先行き判断

長引くコロナ禍と続く物価上昇で  
先行きは依然として不透明

図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



先行き判断指数(DI)は前月から1.2ポイント下落の44.7となった。「新規感染者数の推移がこれまでと同様であれば、8月中旬に新規感染者数のピークを迎え、2~3か月後には改善に向かうとみられるため、来客数の回復を見込んでいる(高級レストラン)」という声も一部に出るが、「現在は行動制限が全くなく、都会でも地方でも新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している。このような状態で景気が良くなるとは思えない(その他専門店[酒])」と先行きの不透明感はぬぐえない。さらに「相次ぐ値上げによる物価高の影響や、新型コロナウイルスの新規感染者数急増で、消費に対する慎重な行動は変わらないとみている(百貨店)」、「新規感染者数が急増しており、観光業や飲食業に影響が出始めている。また、原材料価格や燃料価格の高騰が企業収益を押し下げているが、価格転嫁が進まない企業も多く、当面厳しい状況が続くとみている(金融業)」と厳しい見方が目立っている。

### ●7月のアンケート内容

調査期間：2022年7月25~31日  
調査対象：合計100名(うち回答者91名)  
(内訳) A. 家計動向関連  
B. 企業動向関連  
C. 雇用関連

### ●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

## 1. 景気の現状に対する判断理由(3カ月前と比較して)

### A. 家計動向関連

景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
良くなっている 	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・個人客が順調に回復しており、稼働率は3か月連続で新型コロナウイルス感染症発生前の8割の水準となっている。団体客はスポーツ関連での予約が増えており、新型コロナウイルス発生前の5割の水準まで回復している。本格的な夏休みシーズンに期待している。
やや良くなっている 	一般小売店 [鮮魚] (役員)	販売量の動き	・直近は行動制限などがなく、販売量は徐々に回復している。
	コンビニ (店舗管理)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が顕著で、夕方以降の来客数が激減している。しかし、日中の来客数は3カ月前と比べても落ち込みはみられない。
変わらない 	百貨店 (販売促進担当)	お客様の様子	・今月初めにかけてのクリアランスセールで夏物商材が好調に推移し、徐々にアパレルに動きが出たようにみえたが、中盤以降は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い高齢者を中心とした来客数が減少し、月末に近付くにつれて売上にも影響が出始めている。一方で、輸入化粧品やブランド品のジュエリーで、値上がり前の駆け込み消費のような動きが見られる。
	スーパー (仕入担当)	単価の動き	・買上点数はダウンしているが、メーカーからの相次ぐ価格改定で単価が大幅にアップしていることから、売上は横ばいの状況である。
	スーパー (統括)	それ以外	・エネルギー価格の高騰や個人消費の回復の鈍さによって、ウイスクロナによる経済正常化の動きが相殺されており、結果として変化はないとみている。
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響で客足は半減しており、売上は極端に減少している。
	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・引き続き新車の入荷状況が悪く、納期が不安定な状態が続いている。新型車の発表はあったが、納期遅れが続いており、販売量の確保が困難になっている。
	乗用車販売店 (役員)	お客様の様子	・減産の影響による納車遅れが続いていることで、客の購買意欲に陰りを感じる。また、新型コロナウイルスの感染拡大による警戒感により、消費活動にもブレーキが掛かりつつあることが気掛かりである。
	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の増加に伴い、予約のキャンセルが増えているが、行動制限がないため新規予約も入ってきている。
	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ感じられず、来店客はいる。ただし、販売につながらない。オンラインでの購入に流れている客が多いのではないかと考える。
	通信会社 (役員)	単価の動き	・電子機器等の価格上昇を料金に転嫁できない状況である。客のサービス加入意欲が減少する懸念が出ている。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・物価上昇や、入手できない部品が増えている等の状況が多くの人に認識されており、駆け込みでリフォームしたり設備機器を交換したりする客が増えている。
やや悪くなっている 	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しており、回復傾向にあった販売業に水を差した状態になっている。
	家電量販店 (本部)	販売量の動き	・7月に入ってから、エアコンなどの季節関連商材の売上が非常に厳しくなっている。
	自動車部品販売店 (役員)	お客様の様子	・景気が回復してきたようにみえたが、各種値上げや新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大の影響で、購買客の様子をみると景気は後退しているようにみえる。
	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の第7波の影響は従業員にも及び、スタッフが安定的に出勤できない店舗が発生するなど、運営に支障が出るケースが発生している。消費に関しては晴れの場が少なくなり、日常生活中心の身近な消費行動が続いている。その一方で、夏休みを屋外で過ごすケースが増えているためか、レジャー系商材や外出時の便利グッズなどが堅調に推移している。
	一般レストラン (統括)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染が再拡大している。国は行動制限をしない方針で進んでいるが、マスクが報道で騒ぎ立てるため、感染状況が落ち着いていた6月と比べて消費者の外出利用や夜の外出が減っていると感じる。また、観光地である当市は、7月の3連休を境に観光客が激減している。
	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・行動制限はされていないが、新型コロナウイルスの感染拡大によって客の動きがやや鈍くなっており、やや悪くなっている状況である。



### A. 家計動向関連

景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている 	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者になったとか、子供が通っている小学校が休校になったなどで、予約客のキャンセルが増加している。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今後、更に住宅価格が高騰するとの思わくから、今のうちに購入した方が良いとの駆け込み受注の印象を受けていたが、さすがにその力も弱まっており、今後の受注額は減少するとみている。
	住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・4月以降受注の低迷が続いている。価格高騰の影響か、商談客の動きが鈍化しており、ますます落ち込みが進んでいる。
悪くなっている 	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏休みにもかかわらず、人出が激減している。買物客は散歩することもなく、用事を済ませるとすぐに帰途についており、全くお手上げの状態である。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が上昇しないため、エアコンなどの夏物商材が苦戦している。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・悪い状態に逆戻りしている。新型コロナウイルス新規感染者数の増加や、プレミアム付食事券が使用できる居酒屋や小料理屋などで飲食し、使用できない当店への来店はなくなっている。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が爆発的に増加しており、7月19日以降、夏の団体旅行や企業における出張のキャンセルが相次いで発生している。

### B. 企業動向関連

良くなっている 	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・特に大型の受注が増加している。
やや良くなっている 	一般機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・特に半導体関連を中心に好調なことから、他の製造業でもほとんどのメーカーが繁忙状態になっているようである。
変わらない 	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・直近の売上は若干ではあるが前年割れの傾向である。第7波が到来しても人の動きは活発なままで、巣籠り需要による家庭用の消費が好調だった頃とは様子が異なる。市販用の商材は苦戦続きである。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症対策の行動制限の緩和が進む一方で、半導体不足やウクライナ情勢の長期化に伴う供給制限、物流費や原材料費高騰の影響は大きく、引き続き厳しい状況が続いている。
やや悪くなっている 	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・受注は引き続き堅調であるが、原材料価格の高騰に拍車がかかっており、収益環境が一層厳しくなっている。
	輸送業（管理会計担当）	受注価格や販売価格の動き	・燃料費が高騰しているため運賃を引き上げたいが、競合の大手企業が物量確保を優先しており、消耗戦の様相を呈している。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・原材料など経費の値上がりを価格転嫁できない状態である。また、1度は価格転嫁しても再度値上がりし、利益率が改善できない。一方では人手不足の問題も継続しており、会社運営は引き続き厳しい状況である。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一般消費者は家を建てることを控えており、不景気はかなり影響していると考えられる。
悪くなっている 	-	-	-

### C. 雇用関連

良くなっている 	-	-	-
やや良くなっている 	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、前年度と比較して増加が続いている。
変わらない 	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、応募者が少ないためマッチングが困難を極めている。
やや悪くなっている 	新聞社 [求人広告]（担当者）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が第7波に入り、若干ではあるが会合やイベント等に延期の動きが見られる。ワクチン接種が進んでいるため、これまでのような混乱は起きていないが、2～3か月前と比較するとイベントの開催や広告出稿について慎重な姿勢が強くなっているようである。
悪くなっている 	-	-	-

## 2. 景気の先行き (2、3カ月後) に対する判断理由

### A. 家計動向関連

景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
良くなる 	一般レストラン (統括)	・過去2年の傾向と同じく、9月で新型コロナウイルスによる感染が一旦落ち着き、10~12月は新規感染者数が右肩上がりになると見込んでいる。
	商店街 (代表者)	・新型コロナウイルス新規感染者数の爆発的な増加がなければ、良い方向に向かうとみている。しかし、過去最高の新規感染者数が続いており、夏休みに向かって感染状況が落ち着くかどうかは景気回復の決め手になると考える。
やや良くなる 	高級レストラン (スタッフ)	・新型コロナウイルス新規感染者数の推移がこれまでと同様であれば、8月中旬に新規感染者数のピークを迎え、2~3か月後には改善に向かうとみられるため、来客数の回復を見込んでいる。
	通信会社 (営業担当)	・新商品のスマートフォン発売開始に伴い、需要が増加すると見込んでいる。
	美容室 (経営者)	・新型コロナウイルス感染症の第7波は9月頃にはピークアウトして、消費行動が再び活発になってくるとみている。
変わらない 	百貨店 (売場主任)	・相次ぐ値上げによる物価高の影響や、新型コロナウイルスの新規感染者数急増で、消費に対する慎重な行動は変わらないとみている。
	百貨店 (販売促進担当)	・物価高や新型コロナウイルスの感染拡大が、アパレルを中心にマイナスの影響になると考えているが、外商客を中心とした富裕層における時計やブランド品などの高額品の購入が引き続き好調に推移し、アパレルのマイナスをカバーするとみている。
	百貨店 (販売担当)	・当面は新型コロナウイルス感染症による影響のため、夏休みや秋の外出需要の伸長は期待できず、カジュアル衣料品は秋も苦戦を見込んでいる。一方で結婚式や葬儀がほぼ通常に戻りつつあり、リモートワークや出張停止の影響でこの数年購入が減少していた礼服やスーツ、シャツ、靴などのビジネス関連は、低価格商品に限定されると考えるが、やや回復すると見込んでいる。プラスとマイナスの両面がありしばらくは現状維持と考える。
	スーパー (店長)	・新型コロナウイルス感染症の影響、円安、値上げなど、先の見通しが全く立たない。
	家電量販店 (本部)	・商品価格の上昇や新型コロナウイルス変異株の影響もあり、景気が上向くのはまだ先になるとみている。
	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	・今後も新型コロナウイルスの感染状況に左右される状態が続くとみている。また、高騰している原材料価格の販売価格への転嫁なども考えられ、消費者の節約志向が一層強まることによる日常消費の低迷が懸念材料である。
	観光型旅館 (スタッフ)	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大による予約減少に対し、県民割が8月末まで延長され、7月からは市独自の支援策も開始されている。これらの利用による予約の増加を期待している。
	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第7波に入って、新規感染者数の状況や4回目のワクチン接種者数の増加が、どのように人出に影響するか不明である。
	通信会社 (役員)	・半導体不足が続くことに加え、ロシアのウクライナへの軍事侵攻や円安傾向の収束がみえてこないことから、状況は変わらないと考える。
	やや悪くなる 	一般小売店 [事務用品] (店長)
一般小売店 [書籍] (従業員)		・8月以降も商品の値上がりは続くため、まだ落ち込むのではないかと考える。
スーパー (仕入担当)		・現在は客単価を維持できているが、今後は競合店との価格競争が過熱し、来客数についての対策が必須になるのではないかと懸念している。
コンビニ (エリア担当)		・コロナ禍や物価高の影響で、やや悪くなると見込んでいる。
乗用車販売店 (役員)		・物価の上昇や新型コロナウイルス感染症の拡大に加え、所得がなかなか増えず、改善の見通しが立たないことから、やや悪くなるとみている。
自動車備品販売店 (役員)		・政府の抜本的な対策がないと、長引く物価高で今後も消費の低迷が続く、更なる景気後退が起こるのではないかと考える。
タクシー運転手		・新型コロナウイルス感染症の第7波による感染拡大が続くと考える。
通信会社 (職員)		・物価上昇が影響すると考える。
テーマパーク (役員)		・現状の感染状況が続く、全国旅行支援の開始もずれ込むと、現状より更に悪化すると考える。
パチンコ店 (経理)		・物価高に加え、新型コロナウイルス感染症の第7波で経済活動が低下するとみている。



### A. 家計動向関連

景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる 	その他レジャー施設 [スポーツクラブ] (総支配人)	・スタッフ本人や家族が新型コロナウイルスに感染することで、勤務スケジュールの調整が困難になっている。代替スタッフの確保が難しい状況が非常に多くっており、これが続けばプログラムの変更や休講にせざるを得ず、客離れが心配である。入会者は減少し、休会も更に増加している。
	住宅販売会社 (従業員)	・短期間に住宅価格が2割以上上昇しており、駆け込み受注は減少している。金利が上昇する可能性があり、今後受注する戸数は徐々に減少し、売上も減少すると見込んでいる。
	住宅販売会社 (従業員)	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、客の様子にも変化が現れると考える。
悪くなる 	その他専門店 [酒] (経営者)	・現在は行動制限が全くなく、都会でも地方でも新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している。このような状態で景気が良くなるとは思えない。景気がこのまま低迷していくとは考えにくい。商品の値上がりもあり、ますます悪くなるのではないかと非常に懸念している。
	住宅販売会社 (営業)	・住宅業界において景気が良くなる要素は一切なく、国による景気対策がなければインフレによる物価上昇で、客足が遠のくことは必定である。

### B. 企業動向関連

良くなる	-	-
やや良くなる 	化学工業 (総務担当)	・受注量は今後増加していく予定である。
	精密機械器具製造業 (財務担当)	・受注の勢いは前月より弱まっているが、数か月前と比較すると増加傾向にある。
変わらない 	プラスチック製品製造業 (企画担当)	・ウクライナ情勢の長期化による食料品や日用品などの相次ぐ値上げに加え、新型コロナウイルスの感染再拡大の動きも見られ、当面、個人消費は本格的に回復しないと考える。
	一般機械器具製造業 (経理担当)	・オートバイ関係の受注は引き続き好調のまま推移しているが、自動車関係はメーカーの生産回復が半導体不足の影響で遅れていることから、受注が低調なまま推移している。この傾向は当面変わらないとみている。
	一般機械器具製造業 (総務担当)	・今後の受注も好調に推移すると感じているが、原材料費や人件費の高騰がネックとなる可能性もあり、確実に良くなるとは言えない。
	建設業 (役員)	・原材料価格の動向が依然として不透明なことに加え、資材の確保にもまだ相当期間を要するなど、不安材料が多くなっている。
	通信業 (営業)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し続ければ、消費も低迷し景気は後退すると考える。しかし、以前のような冷え込み方はしないとみている。現状レベルで推移するものとする。
	金融業 (融資担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、観光業や飲食業に影響が出始めている。また、原材料価格や燃料価格の高騰が企業収益を押し下げているが、価格転嫁が進まない企業も多く、当面厳しい状況が続くとみている。
やや悪くなる 	食品製造業 (経営企画)	・多少の増減はあっても売上は比較的安定して推移すると考えるが、原材料や包装資材などのコストアップにどこまで耐えられるかが大きな課題となっている。
	輸送業 (管理会計担当)	・第7波による新型コロナウイルスの感染拡大や燃料費の高騰、競争激化など、先行きのマイナス要素が多いと考える。
	司法書士	・契約済みの事案が終わり、今後は資材不足や、燃料費などの価格高騰の影響が出るという話を聞いている。
悪くなる	-	-

### C. 雇用関連

良くなる	-	-
やや良くなる 	民間職業紹介機関 (経営者)	・新型コロナウイルス感染症が第7波に入り新規感染者数が増加しているが、飲食や観光などでは客が徐々に戻ってきている。そのため消費の増加につながり、景気が良くなると見込んでいる。
変わらない 	新聞社 [求人広告] (担当者)	・食料品やガソリンなど、生活必需品の物価高がなかなか解消されず、厳しい状況が続いている。自動車通勤が多い地域でもあり、生活が楽になるという見通しはなかなか立たないと考える。
	職業安定所 (職員)	・一定の業種では円安が続くことで輸出の好調が続くと考えられるため、求人数が多い状況は継続するとみている。
やや悪くなる 	人材派遣会社 (社員)	・新型コロナウイルス感染症の第7波による影響が大きいと、一旦は上向きになりかけた新規求人数及び求職者数が停滞、若しくは減少へと変化するのではないかと考える。
悪くなる	-	-